

秀吉の権威 金森氏が示す

飛驒国司姉小路氏城館跡の発掘調査はじまる

金森可重画像(林昌寺蔵)
金森氏は秀吉の命を受けて
飛驒を統一した。



三木 自綱画像(千光寺蔵)
南飛驒から勢力を伸ばし
姉小路氏の名跡を継いだ。



姉小路基綱画像(蒲家蔵)
姉小路氏は朝廷より飛驒国
司として任じられた。



古川町には、「姉小路氏」、「三木氏」、「金森氏」の3つの勢力が移り変わった様子の分かる遺跡が残っています。それは古川城跡・小島城跡・野口城跡・向小島城跡・小鷹利城跡の5つの山城です。

市教育委員会では、これらを姉小路氏城館跡として、国史跡指定を目指しています。今年度は、姉小路三家のうち古川氏の居城・古川城跡と、小島氏の居城・小島城跡において発掘調査を行いました。



▲発掘が進む古川城の石垣

虎口は、古川城跡と同じように1mを超える巨石を用いた石垣を確認

○小島城跡でも金森氏による石垣を確認

古川城跡では、主郭(中心となる大きな平坦地)で5間×4間の礎石建物を発見しました。虎口(城の出入り口)では、1mを超える巨石を用いた石垣が見つかりました。出土した土器などから、天守も石垣も、秀吉の命により飛驒を平定した金森長近が築いたものとみられます。それ以前に姉小路氏もしくは三木氏が使用したと推定できるカワラケ(当時の酒器)も見つかったことから、古川城跡は、姉小路氏の居城を金森氏が大規模に改修したと想定できました。

古川城跡・小島城跡の調査成果は、織豊政権(織田信長・豊臣秀吉による政権)が新たな領土支配に城郭がいかに重要であったかを示す、全国的にも貴重な事例と評価できます。

これは、金森氏が飛驒国司・姉小路氏の居城である古川城や小島城に一旦入って大改修し、石垣・天守などで新たな支配者としての威容を麓の領民に示したものと考えられます。その後、増島城を造って移ったのでしよう。

古川城跡の天守相当の建物、古川城跡・小島城跡の巨石を用いた石垣の発見から、最終的に金森氏が大改修したと判明しました。一方で、古川城・小島城ともに姉小路氏段階の土器類も発見されたため、築城は姉小路氏によるということも裏付けられました。

○秀吉による統一政権の象徴

垣で櫓台(城郭内の防御などのための建物)を構築していたと分かりました。また、主郭の宮川側にだけ高さ4mに及ぶ裏込めを伴う石垣を発見しました。主郭からは小島氏が使用したであろう瀬戸美濃焼の皿などが出土しています。このため、小島氏の居城を、宮川側を強く意識した石垣で金森氏が大改修したと想定されます。



▲古川城跡で発見された天守相当の礎石建物

市では調査・活用を進めます
市では、このように「中世の飛驒の歴史を物語る城跡」とも言える姉小路氏城館跡の調査を継続します。来年度以降、古川城跡・小島城跡で石垣の測量、野口城跡・向小島城跡・小鷹利城跡で発掘調査を計画しています。また、調査と共に今年度も実施した山城イベントや現地説明会、歴史講座などで成果やその価値をお知らせいたします。

引き続き明らかになった成果や課題を市民の皆さまと共有いたしますので、継続する調査やイベントにぜひご注目ください!